

平成27年度小城私立牛津中学校 学校評価計画

1 学校教育目標 『確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成』	2 本年度の重点目標 (1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心の育成・生徒理解に立った寄り添う指導 (3) 健やかな体の育成
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 確かな学力の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校教育力の向上	協働体制の推進(校長)	・職員同士の意思疎通と「協働」による教育活動の推進を図る。 ・生徒支援(生徒指導・教育相談・特別支援等)の充実のため、保護者及び専門機関との連携を積極的に図り、学校全体での支援を図る	・企画委員会及び学年部会の機能充実を図り、学校運営に積極的に参画する「協働」体制の構築を図るとともに教職員のアイデアを効率よく実現できるよう先を見通した学校運営に取り組む。 ・外部専門機関とのネットワークの構築を図り、個々に応じた支援計画を作成し、職員共通理解のもと支援にあたる。
	○家庭・地域との連携	家庭や地域との連携強化(教頭・原田)	・家庭・地域への学校情報発信と情報収集を図り、家庭・地域との連携を深める。 ・学校・家庭・地域が一つとなり学校教育力の向上を図る。	・学校通信や学年・学級通信を定期的に各家庭に配布し、学校情報の伝達を図り、学級担任や部活動顧問が家庭との連絡を密にし、さまざまな情報収集に努める。 ・教育懇談会をより充実させ、学校・家庭・地域のさらなる連携強化を図る。 ・学校行事等の広報活動の充実を図り、保護者や地域の協力を得る。
教育活動	●学力向上	基礎基本の定着及び自学力の育成(原)	・学習課題提出率100%を目指す。 ・家庭学習時間1時間以上を1年70%、2年80%、3年90%を目指す。 ・学習に意欲的に取り組む生徒を全体の85%以上を目指す。	・学年、教科で生徒が学習課題を提出できるように連携し、工夫改善を図る。 ・学習の流れを理解させ、目標を明確にし、学習の仕方をわかりやすく指示をする。 ・IWBを用いた学習意欲の向上を目指した指導法の工夫改善を図る。
	○進路指導体制の整備	キャリア教育の推進(森岡)	・将来の目標を見据え、そこに到達するための進路を考える意識を持たせるために、中学3年間を通じての一貫した進路指導の計画と実践を推進する。 ・卒業時の第1志望達成率95%以上を目指す。 (参考数値:平成26年度卒業生89.6%)	・将来の具体的な目標を考え、実現に向けて努力する意欲を持たせるために、1年時より生徒の発達段階に応じた系統的な進路学習を行う。 ・学力向上との連携により、進路実現のために必要な意欲と学力の定着を図る。 ・将来を考えるために必要な情報を、具体的にわかりやすく提示する。
	○学習環境の改善充実	数学・英語におけるTT指導の充実(秀島)	・つまづきが生じやすい中学校1年生の数学・英語を中心に、生徒の興味・関心や習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を行う。	・個に対応したきめ細やかな指導を行い、基本的な学習規律や学習習慣を身につけさせる。また、習熟の差に応じた指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図り、学力向上に努める。 ・T1、T2の教員間で情報を交換することで生徒の状況の把握を行うほか、指導方法の改善にも努める。
	●教員の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	ICT利活用能力の向上(古川)	・学校行事や授業など学校生活の中で、適宜ICTの利活用を図る。	・ICT機器の使用方法や使う内容などを研修会や教科部会で話し合い、授業実践につなげる努力をする。 ・ICT機器の使い方や活用について新聞を作成し、教師全員に配布する。
	○教職員の資質向上	校内研究の充実(吉富)	・生徒が主体的に学習に取り組む授業を目指し、全職員で授業の工夫・改善に取り組む。 ・実力テストの活用方法、QUアンケートの分析を研究し、生徒の支援につなげる。	・授業の工夫・改善をするために、授業研究会を年数回実施する。 ・講師を招いた研究会を実施する。

② 豊かな心の育成・生徒理解に立った寄り添う指導

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実(古川)	・各学級、1回以上保護者に授業を公開する。 ・生徒の心に響くような授業を月1回以上行い、豊かな感性の育成を図る。	・フリー参観デーでふれあい道徳を実践し、保護者と共に生き方を考えさせる授業を実践する。 ・「私たちの道徳」を中心に、副読本等の読み物教材、詩や絵本、新聞等を活用して、各学年の状況に応じた題材を選び、生徒たちの心に響くような授業につなげる。
		人権・同和教育の充実(内川)	・人権が尊重される環境作りを図る。 ・「気になる子」を中心に据え、お互いの違いを認め、支え合い助け合う心を育て、差別を許さない学年・学級作りを努める。	・校内研修の内容充実を図ると共に、人権学習に取り組む意識を高める。 ・お互いを認め合い、差別を許さない学年・学級作りを努める。 ・差別や人権について考える機会をつくるために、人権作文や人権標語に取り組みせ、生徒会とタイアップして人権集会を実施する。
	○生徒指導	組織的生徒指導の充実(井手)	・生徒の安全、問題行動やいじめの防止等、生徒誰もが安心して生活できる学校。 ・問題点を的確に把握し、普段から予防的措置を講じていく。 ・子どもを取り巻くネット環境の把握・理解に努め、トラブルの未然防止を図っていく。	・生徒指導部・学年・学級が一つになり校内での指導体制を整え、諸機関の協力も得ながら関係生徒及び保護者に計画的・組織的に関わっていく。 ・計画的に多様な調査を実施し、早期に生徒の変容をつかみ、問題行動やいじめへの対応を図っていく。
		教育相談の充実(原田)	・生徒支援部会を定期的(毎週火曜4時間目)に開催し、日々変化する生徒の情報交換及び状況把握に努める。 ・不登校及び不登校傾向の生徒への対応をあらゆる角度から探り、組織的な体制で改善に取り組む。	・スクールカウンセラー、心の教室相談員、スクールソーシャルワーカー、支援センターなどと連携を深め、組織的な対応を心がける。 ・月3日以上欠席者を調べる。 ・気軽に相談できるよう、物心ともに環境整備を行う。
	●いじめ問題への対応	いじめ予防及びいじめの早期発見、早期対応の徹底(井手・原田)	・いじめが犯罪行為にあたる可能性があるとの認識のもと、普段より生徒の実態に合った指導体制を築いていく。 ・何よりも未然防止。生徒の変容を常に観察、また、計画的に各種調査を実施していじめの早期発見に努め、いじめ防止・解消への迅速な行動につなげていく。	・毎日の指導の中で、いじめに対する認識を磨かせる。 ・子どもとのふれあい・意識調査などを基に、いじめが発生、悪化する前に状況を把握して早期の指導を実施する。 ・いじめの段階に応じ、問題点を把握し、関係諸機関の協力も得ながらいじめの解消を図る。
	○特別支援教育	特別支援教育体制の組織化(橋間)	・特別支援教育体制の組織化を図るため、教育相談とともに生徒支援部による校内体制の充実を目指す。 ・一人一人の教育的ニーズを把握し、学校内外の関係者の共通理解を深め、連携した指導や支援を目指す。 ・自立と社会参加を踏まえ、長期的な視点で一貫した支援を目指す。	・教師間の連携を図り、「早期の気づき」、「早期の対応」で、生徒や保護者に寄り添った支援を行う。 ・「困り感」のある生徒には、「個別的教育支援計画」を作成し、具体的な目標に向けて支援内容を明確にし、必要に応じて校内外の関係者との連携によるチーム支援を行う。 ・小学校との連携を強化し、必要に応じた学びの場の整備を図り、個々の能力を可能な限り伸ばし、自立に向けた支援を行う。
○生徒会活動の充実	全校生徒が主役の生徒会づくり(福島・秀島)	・全校生徒の活動を活発にするよう、生徒会役員が日々の学校生活においてもリーダーシップをとり、生徒一人一人が活動できる体制をつくる。	・生徒一人一人の活動を徹底するために、専門委員会の翌週の月曜日の朝の会で、翌月の自分の活動を確認する。 ・評議委員会の活性化を図るため、年間計画の活動と共に、日々の学校生活の中での問題点を取り上げ、翌月の活動に付け加える。 ・学級討議で、総務委員を中心に建設的な話し合いができるよう指導する。 ・これまでの生徒会行事反省を今期の活動に反映させ、生徒と話し合いの上、改善を加えていく。	

③ 健やかな体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	部活動の充実と部活動を通じた基本的生活習慣の確立(大坪)	・部活動を通して強い体と心を育てる。 ・挨拶や礼儀、持ち物の管理など、基本的な事柄を確実に身につけさせる。	・部活動紹介、選手推薦式、体育大会などの行事を通して、キャプテンを中心に、互いに励み合い競い合いながら、意識を高めるよう支援する。
		健康・安全・食に対する意識の向上(岩崎・内川)	・「命の教育」を昨年度に続き実施し、自他の生命を尊重する態度心を育てる。 ・校内外の救急体制を整備し、危機管理に努める。 ・学校給食における「食物アレルギー」の生徒に対する校内体制を確立する。	・「食持アレルギー」に関する確実な実態把握のために新入生に対するアンケートの実施や、要管理生徒の個別の支援プランを立てる。 ・救急時に活用する健康管理生徒の情報の共有をわかりやすい形で行う。 ・食を通して健やかな命を育むための学習を、体験活動を含め、設定する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目